



## 目 次

ごあいさつ	1
第9回通常総会次第	2
第9回通常総会提出議案	3
平成19年度事業報告書	
部門別事業報告	4 ~ 17
貸借対照表	18
損益計算書	19 ~ 21
平成19年度剰余金処分案	22
付属明細書	23 ~ 24
監査報告書	25
第四次3ヵ年事業計画（平成20年度～平成22年度）	26 ~ 38
組織図	39
組合員名簿	40

## 組合員のみなさまへ

本日ここに第9回の通常総会を開催するにあたり一言御礼申し上げます。昨年は戦後農政の大転換という大きな波に翻弄されましたが、第三次3ヵ年計画のテーマであった自立組織としての形がほぼ整えられましたことは、一重に組合員の皆様はもとより関係各位のご支援のたまものと深く感謝申し上げます。

平成19年度事業面では、地球環境にやさしい米づくり、「農地・水・環境保全向上対策」に呼応した栽培技術でと、有機・有機の名のもとに減農薬・減化学肥料米づくりの結果、美味しい食味となったものの、収量は反当り1俵の減少となりました。麦・大豆については、暗渠工事が功を成してきたのか、過去最高の収量をあげることができました。

ただ、残念なのは生産者米価です。政府が対策として、昨年11月に34万トンの備蓄米買い入れを実施したにもかかわらず10%近く下落しました。

わが組合も、収量と価格のダブルパンチで収益が悪化しましたが、農業を放棄するわけにはいきません。

2006年度39%にまで低下した食料自給率は、国民の食を支えるという農業の使命を改めて警告してくれています。農業は農家だけのものではなく国民生活全体、さらには国家安全保障に直結しているからです。

何としても農地と農業を守りぬかねばなりません。農水省は農地を食料の供給源だけでなく、地球温暖化防止策として農地を二酸化炭素の吸収源として活用する検討を開始しています。我々は将来の自給率と環境にも責任があります。

また、世界的には穀物価格の高騰が続いており、主産地豪州の大干ばつと欧州の不作から小麦が最高圏にあります。また、大豆は34年ぶり、トウモロコシは11年ぶりの高値です。これらはバイオディーゼルやバイオエタノールの原料となり燃料需要が拡大しているからです。食用と燃料用で食材の争奪が始まっているのです。また、中国などの新興国の急成長で食料不足も予想され、人口減少で国内需要は頭打ちの日本農業が復活する可能性も十分出てきました。

(財)日本漢字能力検定協会の2007年「今年の漢字」は「偽(いつわり)」でした。新中期計画を展望するとき、収益改善と効率経営を最優先課題とし、正直な経営に取り組んでいきます。今一度、大地の恵みである収穫物に感謝し、生産できるありがたさを噛みしめ、役員一同一層精進してまいります。

平成20年2月24日

## 人は、人の為に成らずして、人にあらず

農事組合法人 酒人ふぁ～む

代表理事

東浦常夫

## 第9回通常総会次第

と き：平成20年2月24日(日)

午後1時30分より

ところ：酒人公民館 2階大広間

1. 開会のことば
2. 代表理事あいさつ
3. 来賓ご祝辞

( 休 憩 )

4. 総会成立宣言
5. 議長の選任
6. 書記の指名
7. 議事
8. 閉会のことば

議長氏名	
------	--

議事録署名人	議長および出席理事
--------	-----------

組合員数	56人	出席人数	人
------	-----	------	---

## 第9回通常総会提出議案

### 第1号議案 平成19年度事業報告について

平成19年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、  
剰余金処分案及び附属明細書の承認について

P 4 ~ P 2 5

### 第2号議案 第四次3ヵ年事業計画

(平成20年度~平成22年度)

および平成20年度事業計画の承認について

P 2 6 ~ P 3 8

### 附帯決議

この総会において決議した事項のうち、行政庁に提出する書類で補正・変更を必要とする場合は、その趣旨に反しない範囲内において、その変更を理事会に一任する。

以上のとおり上程いたします。

平成20年2月24日

農事組合法人 酒人ふぁ～む  
代表理事 東浦 常夫

# 平成19年度事業報告書

## 部門別事業報告

### 生産部

#### [栽培]

平成19年度は、経営所得安定対策等大綱の諸政策に機敏に対応することが余儀なくされる年度でした。後ろ向きとも思える「机百姓」も農地・村を守るための「農作業」と前向きにとらえ、計画や報告、交付金申請など次々と送付されてくる書類とまさに格闘した一年でした。

生産物別に報告しますと、水稻については、全量「特別栽培米」「環境こだわり米」と、それぞれの特性に応じた技術を導入した作付体系を組み、「売る」ための「美味しい米」づくりに取り組みました。田植時期は好天に恵まれ、ここ近年では良好な初期生育となったものの、7月以降降雨が多く、低気温の時期が続いたため幼穂形成の遅れとなり、籾数が減少、また登熟期の高温から早生品種に心白、乳白が多発し、一部品質を落とす結果となりました。隔年毎の堆肥投入により地力増進を図っているものの、減化学肥料での栽培技術がともなわず収量下落となったことは今後の大きな課題です。

米価下落による収入の減少を支えようと取り組んだ稲わら供給事業は、本年新たに生産組合で中古の収集機（ヘイベラ）を導入、今年は計画通りの結果をと意気込みましたが、収集期の天候不順と作業体制が整わず計画比40%の実績に終わり大いに反省すべき点です。

麦については、暗渠排水工事等により通年の2割ほど減じた面積にての栽培となりました。播種期の天候が安定したため初期生育は例年になく旺盛で、そのうえ記録的な暖冬と好天に恵まれたことから赤カビ病の発生も少なく、また収穫期は、梅雨ではありましたが雨は少なく、作業はスムーズに進めることができました。天候と暗渠が功を成したのか基盤整備後最高の品質と収量を得ることができました。

大豆については、世界の食糧事情を反映してか、県下でも生産機運が高まっており種子の需要が多く、「種子大豆」を基軸とした栽培を行ないました。特筆すべき点は、「担い手経営革新モデル事業」に挑戦し、初の狭畦密播栽培も取り入れたことです。付加価値を求めた取り組みから、選別についてはすこやか営農グループの皆様到最后の磨きをかけていただき、明日の大豆栽培への大きな力となっただけであることを申し添えます。



野菜については、両グループとも、今日までに培った技量を生かし巧みな取り組みをしていただきましたが、もう一つ相場が立たず計画比70%の結果となりました。ただ、野菜の栽培が今日の現金収入として酒人ふぁ～むを支えていることは事実です。

## 穀類生産実績

水 稲	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
うるち玄米	1,559	84,180	1,403	9.0	1,619	81,611	1,360	8.4
もち(羽二重)玄米	569	30,720	512	9.0	619	27,731	462	7.5
合 計	2,128	114,900	1,915	9.0	2,238	109,342	1,822	8.1

小 麦	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
農林61号	1,369	32,856	547	4.0	1,370	34,758	579	4.2
合 計	1,369	32,856	547	4.0	1,370	34,758	579	4.2

大 豆	計 画				実 績				
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量			
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反	
ふくゆたか	種子用	668	12,020	200	3.0	769	12,173	203	2.6
	食糧用	733	15,390	256	3.5	704	10,188	170	2.4
合 計		1,401	27,410	456	3.3	1,473	22,361	373	2.5

## 野菜栽培形態別生産実績(年間)

露 地	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	箱・kg	箱kg/ 反		収量 (kg)	箱・kg	箱kg/ 反
ブロッコリー	130	9,750	1,950箱	150箱	130	6,805	1,361箱	105箱
白 菜	30	13,500	900箱	300箱	60	22,125	1,475箱	246箱
キャベツ	30	7,500	750箱	250箱	30	4,720	472箱	157箱
えびす南瓜	70	9,800	980箱	140箱	70	1,940	194箱	28箱
玉 ね ぎ	30	9,000	9,000kg	3,000kg	2	ネギ 61	61箱	-
切花(小菊)	5		600束	1,200束	2	114	228束	-

ハ ウ ス	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/ a		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/ a
小 松 菜	20.3	2,400	12,000袋	591袋	36.0	3,738	18,690袋	519袋
ほうれん草	1.8	270	1,350袋	750袋	1.8	126	630袋	350袋
サニーレタス	14.6	2,190	8,760袋	600袋	6.0	717	2,868袋	478袋
ト マ ト	4.0	1,600	400箱	100箱	4.0	1,244	311箱	78箱
み ず 菜	16.7	2,505	12,525袋	750袋	3.0	292	1,460袋	487袋
そ の 他					-	-	32袋	-

## 耕畜連携稲わら生産実績（JA稲わら生産供給組合）

稲わら	計 画				実 績			
	採集 面積 (a)	生産量			採集 面積 (a)	生産量		
		収集量 (kg)	梱包 (10kg)	梱包/反		収集量 (kg)	梱包 (10kg)	梱包/反
飼料用稲わら	1,500	60,000	6,000	40	523	24,820	2,482	47.5
合 計	1,500	60,000	6,000	40	523	24,820	2,482	47.5

## [労 務]

組織も10年経つと、どこかで制度疲労が起こります。役割分担をないがしろにすると、義務感と責任感が欠如してしまうことがあります。しかし、わが組合の構成員は、そんな社会に呑み込まれることなく、何度も味わってきた辛酸から這い上がってきた者ばかりです。

本年度も、苦しい中でも労働時間の縮減に取り組み、なかでもすこやかグループの皆様には汗をかいていただきました。その汗と意気に応えるべく、歯を食いしばって戦った結果が下表の通りです。

労務管理実績表

（単位：時間）

	計画	実 績				合計	計画比 (%)
		役員・OP	すこやかG	なごやかG	その他		
穀類	水 稻 (7品種)	4,120	2,729	612	46	3,387	82.2%
	小 麦 (農林61号)	720	605	24		629	87.4%
	大 豆 (種子・一般食糧)	2,220	688	3,205		3,893	175.4%
	計	7,060	4,022	3,841	46	7,909	112.0%
野菜	露 地 (6品種)	3,980	241	2,437		2,678	67.3%
	ハ ウ ス (5品種)	3,040	96	309	1,938	2,343	77.1%
	計	7,020	337	2,746	1,938	5,021	71.5%
共 通 (営業・事務・機械施設管理)	1,870	1,588	46		300	1,934	103.4%
合 計	15,950	5,947	6,633	1,984	300	14,864	93.2%



## 営 業 部

わが部が独立して早2年、あれもこれも、あそこもここも、これを作ってあっちのお客様へ、気がはやるばかりで結局これといった成果を残すことができずに改革の最終年度を終えることとなりました。振り返ってみますと、あまりに欲張りすぎたせいで足元を見失っていたように思います。集落営農組織の営業とは、組合員皆様の力の「和」であることを覚った年度でした。

### 穀類市場（マーケット）別実績

水 稲		計 画			実 績			
		出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
業 販	うるち玄米	753	12,000	9,036	791.5	12,500	9,894	109%
	もち(羽二重)玄米	482	15,000	7,230	450.5	15,000	6,756	93%
	小 計	1,235	-	16,266	1242.0	-	16,650	102%
直 販	うるち玄米	650	16,000	10,400	562.0	16,300	9,161	88%
	もち(羽二重)玄米	30	20,000	600	11.25	20,000	225	38%
	小 計	680	-	11,000	573.25	-	9,386	85%
合 計		1,915	14,200	27,266	1,815.25	14,300	26,036	95%

小 麦 農林61号	計 画			実 績			
	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
業 販	547	8,000	4,376	579	1,960	1,134	26%
直 販	-	-	-	-	-	-	-
合 計	547	8,000	4,376	579	1,960	1,134	26%

大 豆 ふくゆたか	計 画			実 績				
	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)	
業 販	種 子 用	150	27,000	4,050	185.5	27,000	5,009	124%
	食 糧 用	295	13,000	3,835	163.0	4,400	722	19%
	小 計	445	-	7,885	348.5	-	5,731	73%
直 販	種 子 用	10	27,000	270	6.5	27,000	175	65%
	食 糧 用	1	8,000	8	0.5	8,000	4	50%
	小 計	11	-	278	7.0	-	179	64%
合 計		456	17,900	8,163	355.5	16,600	5,910	72%

### 野菜栽培形態別販売実績

野 菜	計 画			実 績				
	出荷量	単価(円)	販売高(千円)	出荷量	単価(円)	販売高(千円)	対比(%)	
露 地	ブロッコリー	1,950箱	1,300	2,535	1,361箱	1,350	1,776	70%
	白 菜	900箱	600	540	1,475箱	650	962	178%
	キャベツ	750箱	500	375	472箱	350	165	44%

野菜	出荷量	単価(円)	販売高(千円)	出荷量	単価(円)	販売高(千円)	対比(%)	
露地	えびす南瓜	980箱	1,000	980	194箱	887	172	18%
	玉ねぎ	9,000kg	45	405	ネギ61箱	1,080	66	16%
	切花(小菊)	600束	150	90	228束	197	46	51%
	小計	-	-	4,925	-	-	3,187	65%
ハ	小松菜	12,000袋	70	840	18,692袋	70	1,314	156%
	ほうれん草	1,350袋	80	108	630袋	121	76	70%
	サニーレタス	8,760袋	60	526	2,867袋	70	192	37%
ウス	トマト	400箱	1,000	400	311箱	1,077	335	84%
	みず菜	12,525袋	60	751	1,460袋	65	95	13%
	その他野菜	-	-	-	32袋	219	7	-
小計	-	-	2,625	-	-	2,019	77%	
合計	-	-	7,550	-	-	5,206	69%	

### 野菜市場(マーケット)別販売実績

品目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		水口地方卸売市場		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (-)	販売高 (千円)
	数量 (束、箱)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)	数量 (袋、束、個)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	1,276	1,692			75	74	農業祭 10	10	1,361	1,776
白菜	1,384	890			1	1	学校 90	71	1,475	962
キャベツ	410	127	32	12	30	26			472	165
南瓜	184	163	3	3			7	6	194	172
ねぎ	58	64	3	2					61	66
切花							228	46	228	46
小松菜	15,310	1,014	70	7	1,512	158	学校1,800	135	18,692	1,314
ほうれん草・サラダ菜					5	-	625	76	630	76
サニーレタス	2,562	167			177	15	農業祭128	10	2,867	192
トマト			71	107	240	228			311	335
みずな他					1,492	102			1,492	102
合計		4,117		131		604		354		5,206

業販=JA・市場等への業者を通じた販売、直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

### 耕畜連携稲わら販売実績(JA甲賀郡稲わら生産供給組合)

稲わら	業 販	出荷量(梱包)	出荷単価(円/梱包)	販売高(円)
	飼料用稲わら	2,482	420	1,042,440
	引 取			
	合 計	2,482	-	1,042,440
	JA稲わら生産供給組合必要経費			651,138
	差引売上合計			391,302

## 機械施設部

第三次3ヵ年計画の最終年にあたり、農機・施設ともに通りの設備を揃えるに至りました。しかし、農機、特に自脱型コンバインの老朽化が激しいことから、修理費がかさんでいますが、財政状況を考え、もうしばらくはメンテナンスに力を入れ、2台の“15年選手”に頑張らせる所存です。

昨年度は、乾燥調整施設の環境整備に注力してまいりました。これまで、籾殻搬出庫の併設、散水栓による飛散防止措置を施してきましたが、さらに精度を上げるため防塵補強工事を行ないました。これで完全とは申せませんが粉塵量の抑制に効果を発揮しました。今後も対策を継続してまいります。

農機操作技術の取得についてですが、オペレーターの参加が多いときは技術指導ができますが、少ないときは日々の作業に追われて余裕が無いのが実情でした。オペレーターの多数の参加を要請します。

精米所事業については、一時期機械トラブルがありご迷惑をおかけしましたが、区民の皆様をはじめ多くの方々に利用していただいております。今後とも多数のご利用をお願い致します。

加工直売所、アンテナショップの設置計画については、時期、規模等検討を進めてまいりましたが、さらにその内容構成等について今後も継続的な検討が必要であると思っております。

(単位：円)

取 得 資 産 名	取 得 額	圧 縮 額
籾殻搬出庫防塵補強工事一式	800,000	0

工事前



工事後



## 企画管理部

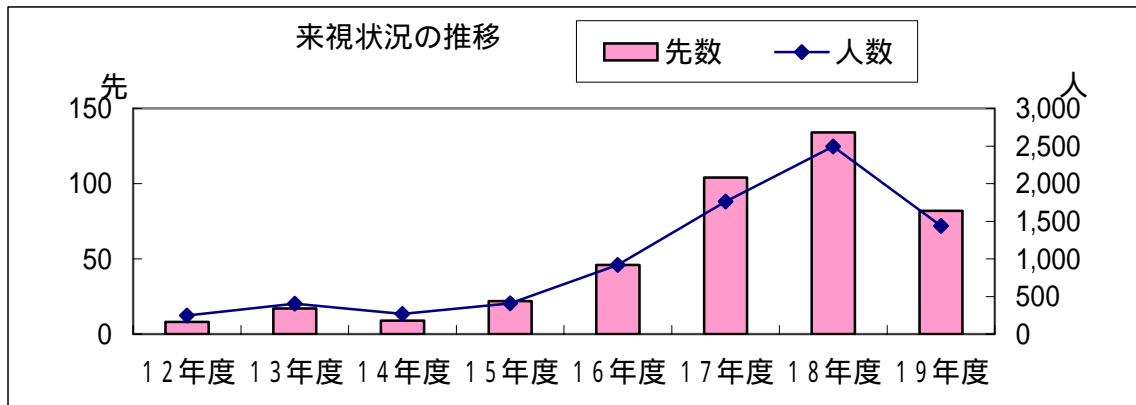
前年度は視察ラッシュのピークが過ぎ、本業へ軸足が向けられた1年でした。しかし、財務状況を見る限り「儲ける農業」は道半ばであり大いなる反省です。

### 【主に取り組んだ内容】

来視者累計 8,000 人に迫る！（別紙参照）

来視	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	累計
先数	8	17	9	22	46	104	134	82	422
人数	247	403	267	408	918	1,760	2,494	1,439	7,936

これまでに延 422 団体、7,936 人もの方が視察に来村されました。



今年度の掲載記事～知名度は全国版！

メディア	月 日	内 容
農林漁業金融公庫	2007/2月報	「農政改革いま現場では」へのコメント
農林漁業金融公庫	2008/1月報	「人の輪と集落の和」でスクラム経営
滋賀県議会だより	19.1.28	12月定例会における代表・一般質問から（写真）
日本農業新聞	19.1.11	事務所明るく電飾
日本農業新聞	19.7.21	農地・水対策 計画通り実施 甲賀市 79 団体を見回り
日本農業新聞	19.9.6	大豆採種栽培が定着 10 ㍏ - 180 ㍏ どり狙う
アグリノート Vol.15	19.1.19	「品目横断的経営安定対策」にかかる秋まき麦の加入申請結果 「機能性の高い“大豆”の安定生産にむけて」講演会
アグリノート Vol.17	19.7.19	農業集落というのは人が暮らす上でこれほど良い環境は無い
JAうつのみや アグリジャンプ	2007.7	特集 集落営農をどう進め、維持発展させるか！
米麦改良	2007.9	「人の輪と集落の和」で「儲ける農業」を目指す

納税協会に加入しました

社団法人水口納税協会に加入したことで、税に関する最新情報の入手はもちろん研修・講習会などで情報交流の場が広がりました。

「平成19年度担い手経営革新促進事業のモデル経営体」に選定される

滋賀県担い手育成総合支援協議会（事務局：滋賀県農業会議）の審査会で県内100経営体に選ばれました。先般、報告した事業実績の検討・評価により助成いただく予定です。

【担い手経営革新促進事業】

①計画書を提出します。（4月末まで）

②新技術に取り組みます。

項目	新技術	内容	
労働力配分の合理化	水稲直播栽培技術	湛水土中直播（バラ播きを除く）	選択
	不耕起栽培技術	大豆の狭畦密播	選択
		水稲、麦、大豆の不耕起（浅耕除く）播種	選択
土地利用の合理化	高度施肥管理技術	・土壌診断に基づく土づくり ・水稲の葉色診断に基づく穂肥施用	必須
資本装備の効率化	耕起・施肥・播種同時作業技術	麦または大豆の耕起（浅耕含む）施肥、播種同時作業	必須
	多目的管理作業技術	栽培管理ピークルの導入	選択
	汎用収穫機の利用技術	汎用コンバインや自脱型コンバインで複数作物の収穫	選択

③栽培記録や経営状況の実績を報告します。（1月末まで）

④1年間の技術結果を検討・評価され、結果によってはモデル経営体の取消もあります。

⑤県担い手協議会が、経営面積と取組技術の項目数に応じて助成されます。

助成額 = 助成単価 × 技術の項目数 × 経営面積

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
取組技術1項目あたりの助成単価	2,200円/反	1,500円/反	900円/反

⑥平成21年度までの3年間の事業です。

農地・水・環境保全向上対策スタート

酒人田園環境愛護会と連携した事業としてオペレーターによる草刈総出を4～6月に3回実施しました。作業後の懇親会効果もあり多数参加いただきました。また、4月にはオペレーターの勤務意向や要望をアンケート形式で確認し、出役計画に活かすことができました。

広告活動～テレビCMに挑戦！

8月26日～28日にびわ湖放送での「環境こだわり農産物」のスポットCMで放映されました。これまでの取材を受ける方式でなく、試験的にCMによるアピールをしました。



「2007クボタいきいき近畿体感フェスタ」会場貸与

11月22日～25日の4日間(株)クボタに圃場を貸与しました。これだけの規模での試乗会は初めてらしく“冬の田植え”実演もあり、近畿各地から多数のお客様が来られ大変な賑わいでした。事業外収入だけでなく、圃場の有効活用と「酒人」のアピールが図れました。

【平成19年度来視状況】

月 日	来 視 先	内 容	人 数
1 / 1 9	福岡県筑後地区生産組合連絡協議会	先進事例視察	8
1 / 2 1	島根県簸川郡斐川町沖洲おきす営農組合	先進事例視察	2 5
1 / 2 3	J A 徳島市青壮年部	先進事例視察	8
1 / 2 4	長野県大町市 21 農業推進支援センター	先進事例視察	2 5
	近畿農政局構造改善課長ほか	視察	3
1 / 2 6	滋賀県下振興局県事務所環境農政部長	先進事例視察	8
1 / 2 9	香川県山田地区基盤整備事業推進協議会	先進事例視察	2 6
1 / 3 0	香川県まんのう地域担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	6 6
2 / 3	徳島県板野郡上板町農業委員会	先進事例視察	4 5
2 / 6	新潟県魚沼地域振興局農業振興部	先進事例視察	1
2 / 7	福岡県 J A 全農ふくれん普通作部会	先進事例視察	3 2
2 / 1 4	近畿農政局ほか	「担い手農家等との意見交換会」	1 8
2 / 1 5	熊本県農畜産物生産出荷協議会	先進事例視察	6
	岐阜県神戸町農業委員会	先進事例視察	1 5
2 / 1 6	養老町農業生産組織協議会	先進事例視察	4 2
	福岡県うきは市 J A にじ ( 第 1 班 )	先進事例視察	1 2
2 / 1 8	淡路市山田営農組合	先進事例視察	4 2
	福井県小山右近次郎下舌土地改良区	先進事例視察	2 0
2 / 2 2	福岡県うきは市 J A にじ ( 第 2 班 )	先進事例視察	1 5
	山口県改良普及職員協議会	先進事例視察	5
2 / 2 4	島根県上直江北部営農組合	先進事例視察	1 8
2 / 2 6	加古川市地域水田農業推進協議会	先進事例視察	2 4
3 / 1	J A 岡山県営農指導員協議会	先進事例視察	2 3
3 / 3	石川県河北郡津幡町市谷営農組合	先進事例視察	1 3
3 / 4	福井市下市地区圃場整備事業委員会	先進事例視察	2 4
3 / 8	滋賀県農業大学校	視察研修	9
3 / 1 4	島根県松江農業普及部安来支所	先進事例視察	2
3 / 1 6	J A 丹波ひかみ東芦田営農組合	先進事例視察	1 2
3 / 2 1	彦根市甘呂町営農組合	先進事例視察	1 5
3 / 2 2	段本幸男衆議院議員ほか	意見交換会	3

月 日	来 視 先	内 容	人 数
3 / 2 3	岐阜地域農業改良普及事業推進協議会	先進事例視察	4 5
	近畿農政局石田課長補佐	視察	1
3 / 2 8	岡山県勝田郡勝央町農業委員会	先進事例視察	1 2
4 / 2 6	奈良県北葛城郡広陵町	先進事例視察	5 7
5 / 2 3	宮城県ＪＡこばやし職員	先進事例視察	4
5 / 2 9	農林水産省総合食料局皆川部長ほか	地方キャラバン	1 1
6 / 1 5	農地整備関係事業計画担当者会議	農水省農道係長、ほ場整備係長現地調査	1 8
6 / 2 0	ＪＡ丹波ひかみ大名草農会	先進事例視察	3 0
6 / 2 6	近畿農政局	広報誌「アグリート」取材	4
6 / 3 0	福井県大野市エコファーム・かわかみ	先進事例視察	2 0
7 / 4	農地政策に関する有識者会議	現地調査	6
7 / 5	甲賀市、甲賀県事務所ほか	「農地・水・環境保全向上対策」現地確認	5
7 / 7	加賀市熊坂町稲作機械利用組合	先進事例視察	9
7 / 1 3	宮城県美里町議会産業建設常任委員会	先進事例視察	6
7 / 1 4	大野市上黒谷集落営農推進委員会	先進事例視察	2 5
7 / 1 7	津市白山町稲作部会	先進事例視察	2 4
7 / 1 8	安曇野市穂高地域営農支援センター	先進事例視察	2 7
7 / 2 7	静岡県藤枝市地域農業振興協議会	先進事例視察	3 1
7 / 3 0	岐阜県垂井町府中機械化営農組合	先進事例視察	3 3
7 / 3 1	近畿農政局齊藤局長ほか	現地視察	3
8 / 5	東近江市特定農業団体平松グリーンファーム	先進事例視察	1 8
8 / 7	湖南地域担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	5 4
	岐阜県揖斐郡大野町営農組合連絡協議会	先進事例視察	2 6
	佐賀県鳥栖南部地区営農組合	先進事例視察	4
8 / 2 4	島根県益田南地域振興グループ	先進事例視察	1 2
	三重県中央農業改良普及センター	先進事例視察	1 2
8 / 2 5	富山市八町生産組合	先進事例視察	1 2
8 / 2 6	大韓民国利川市	甲賀市との交流事業	5
8 / 3 0	島根県安来市宇賀荘地区営農組合	先進事例視察	2 1
8 / 3 1	島根県出雲市農業委員会	先進事例視察	1 1
9 / 5	甲賀県事務所農産普及課ほか	大豆指定種子生産ほ場審査	2
9 / 1 8	宮城県加美郡西部土地改良区	先進事例視察	2 1

月 日	来 視 先	内 容	人 数
10 / 17	(社)農山漁村文化協会 小松氏	作業改善啓発営業	1
10 / 25	農水省農林水産技術会議事務局ほか	遺伝子組換え技術に関する意見交換	4
10 / 27	山口市農事組合法人仙在営農組合	先進事例視察	7
11 / 1	岐阜県郡上市美並町農業生産法人	先進事例視察	21
11 / 2	群馬県水田農業推進協議会	先進事例視察	4
11 / 11	立命館大学政策科学部4回生浜田氏	調査研究	1
11 / 14	徳島県板野郡松茂町農業委員会	先進事例視察	10
11 / 16	農林漁業金融公庫調査室今野主任調査役	公庫月報現地取材	1
11 / 18	近江八幡市集落営農組合おさだ	先進事例視察	25
11 / 19	島根県津和野町農事組合法人連絡協議会	先進事例視察	35
11 / 20	甲賀県事務所農産普及課ほか	第2期大豆指定種子生産ほ場審査	2
11 / 22	J A若狭おおい町土の会	先進事例視察	10
11 / 23	近江八幡市赤尾町営農組合	先進事例視察	15
11 / 25	福井県あわら市(農)イーノなかのはま100	先進事例視察	37
	兵庫県三木市増田営農組合	先進事例視察	25
11 / 26	京都府南丹市園部町農業技術者会	先進事例視察	36
11 / 27	野洲市永原 下町生産組合	先進事例視察	10
12 / 1	東近江市妹環境ネットワーク	先進事例視察	16
12 / 4	長野県松塩筑安曇農業委員会協議会	先進事例視察	26
12 / 6	津市芸濃地区農政推進協議会	先進事例視察	19
合計	82先(前年度比 - 52先)	1,439人(前年度比 - 1,055人)	





【平成19年度講師派遣】

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
1 / 1 0	農林漁業金融公庫本店(東京)	農林漁業金融公庫顧客支援部	農業経営アドバイザーミーティング
2 / 8	京都JA会館	(社)農業開発研修センター	地域農業振興に関する研究会
2 / 9	松本市浅間温泉文化センター	長野県農業経営基盤強化促進委員会	講演「集落ぐるみで地域を守る」
2 / 1 2	徳島プリンスホテル	JA徳島中央会	第34回JA徳島大会講演
2 / 2 0	近畿農政局	近畿農政局	大豆安定生産・需要拡大近畿地域協議会
2 / 2 3	甲南町上磯尾	上磯尾新営農組合準備会	一集落一農場方式の進め方
3 / 6	長浜地方卸売市場	長浜地方卸売市場(株)	地場野菜生産フォーラム
3 / 1 7	JA甲賀郡竜池支所	滋賀県農政協議会甲南支部	基調講演
6 / 1 6	ホテル東日本宇都宮	JAうつのみや	事業運営委員・農協委員合同研修会講演
6 / 2 2	滋賀県農業教育情報センター	JA滋賀中央会	営農指導員ステップアップ研修
9 / 1 3	福島県農業総合センター	(社)全国農業改良普及支援協会	基調講演
1 0 / 2	東京都JAビル	(社)JA総合研究所	担い手の経営基盤強化研究会
1 0 / 1 5	さいたま新都心合同庁舎	関東農政局	集落営農法人化支援研修会事例発表
1 0 / 2 2	千葉県旭市	千葉県水田農業推進協議会	集落営農推進リーダー養成講座事例研究
1 2 / 8	長浜市湖北農業会館	湖北地域担い手育成総合支援協議会	認定農業者講習会講演
1 2 / 1 6	福岡県柳川市	JA柳川	営農組合連絡協議会研修会講演
1 2 / 2 0	宮城県仙台市	宮城県担い手育成総合支援協議会	みやぎの農業担い手育成シンポジウム講演

【平成19年度受講研修】

月 日	研 修	出 席 者	内 容
1 / 1 6	エコファーマー申請	林信、伴	エコファーマー申請
1 / 2 0	JA甲賀郡特別栽培米生産部会	伴	総会
	甲賀地域農業者のつどい	東浦、小林、福西、林喜	講演、事例発表
1 / 3 0	農地政策に関する有識者会議	福西	会議
2 / 6	花野果倶楽部研修会	伴喜、林幸、林勝、林一、山田亨	草津あおばな館
2 / 1 5	ヤンマーアグリプロ21	西村	ポートメッセなごや
	滋賀県食育推進計画意見交換会	東浦	甲賀県事務所

月 日	研 修	出 席 者	内 容
2 / 2 0	あじさいネットワークフォーラム準備委員会	伴喜、林幸	準備委員会
2 / 2 1	水口町露地野菜部会	小林	研修会
	長寿もちづくりコンテスト特産起業経営セミナー	東浦、伴喜、林幸	甲賀町小佐治もちふるさと館
3 / 1	花野果倶楽部定期総会	山田亨、坂田	魅力ある直売所づくり
3 / 1 5	近畿府県農業法人組織現地交流会	東浦	現地交流会
3 / 2 7	水口町露地野菜部会	林信、山田亨	総会
4 / 2 0	農地政策に関する有識者会議	福西	静岡県現地視察
4 / 2 5	水口町良質米研究会	林信	総会
5 / 2	甲賀市水田農業推進協議会	東浦	総会
5 / 1 0	水口町観光協会	東浦	通常総会
5 / 1 5	農地政策に関する有識者会議	福西	会議
5 / 1 7	農政連盟水口支部	東浦	支部役員、代議員選考
5 / 1 8	果樹（イチジク）栽培技術研修会	山田亨	研修会
5 / 2 4	J A 紀の里めっけもん広場	東浦、福西、すこやか17人	視察
	稲わら生産供給組合	西村	総会
5 / 2 5	農政連盟水口支部	東浦	新、旧役員会
5 / 2 8	甲賀市水田農業推進協議会	東浦	集団作付実施田現地確認調査
5 / 2 9	J A 甲賀郡大豆種子採種計画会議	東浦、福西	計画会議
5 / 3 1	J A 甲賀郡麦刈取り会議	林信	刈り取り計画
6 / 2	あぜみちモーニングスクール	東浦	稲作現地研修会
6 / 4	農政連盟水口支部	東浦	総会
6 / 8	農地政策に関する有識者会議	福西	福島県現地視察
6 / 1 8	品目横断的経営安定対策加入申請	東浦、伴	J A 甲賀郡出張受付
7 / 3	水口町露地野菜部会	林信、山田亨	秋冬野菜作付計画会議
7 / 4	農地政策に関する有識者会議	東浦、福西	(農)酒人ふぁ～む視察
7 / 6	J A 甲賀郡担い手組織代表者先進地視察研修	東浦	富山県(農)小山
7 / 1 3	果樹（イチジク）栽培技術研修会	山田亨、林勝、林一	研修会
7 / 1 8	タキイ種苗(株)研究農場見学会	山田亨、林勝、林一	農場見学会
7 / 2 4	担い手経営革新促進事業・モデル経営体説明会	東浦、福西	説明会
	近畿ブロック大豆 300A 技術等新技術の普及推進大会	東浦、福西	会議、講習会
7 / 2 5	水口町病害虫防除協議会	林信	へり防除打合せ
7 / 2 6	J A 甲賀郡水口営農センター研修	なごやかG	第1回トマト現地研修会

月 日	研 修	出 席 者	内 容
8 / 1	稲わら生産供給組合	西村	検討会
8 / 2	甲賀地域担い手育成総合支援協議会	東浦	品目横断的経営安定対策等にかかる説明会
8 / 5	集落営農研修会	山領、井上、藤田、山中橋、林達、奥田、林重	栗東さきら研修会
8 / 9	J A 甲賀郡水口営農センター研修	なごやかG	第2回トマト現地研修会
8 / 23	滋賀県農業法人協会	東浦	通常総会
8 / 24	農地政策に関する有識者会議	福西	会議
8 / 28	水口町良質米研究会	伴	福井県農業試験場視察
9 / 11	J A 甲賀郡水口営農センター研修	すこやかG、なごやかG	第3回トマト現地研修会
10 / 3	(社)水口納税協会水口支部	東浦	合同管外研修
10 / 10	近畿府県農業法人組織交流会	坂田	全国秋季セミナー2007inなら
10 / 11	近江米振興協会	東浦、西村、福西	水田農業を考えるシンポジウム
10 / 15	農地・水・環境保全管理説明会	東浦、谷口区長	県事務所
10 / 19	甲賀地域担い手育成総合支援協議会	東浦	大豆狭畦密播研修会
10 / 25	滋賀県農村女性活動グループ協議会	なごやかG	農村女性のつどい
10 / 26	水口町露地野菜部会	山田亨	出荷会議、京都青果視察
10 / 31	農地政策に関する有識者会議	福西	会議
11 / 5	大規模稲作経営者部会	西村	(株)タカキタ視察研修
11 / 7	農業簿記研修会	福西	J A
11 / 9	甲賀地域担い手育成総合支援協議会	東浦、福西	担い手セミナー
11 / 16	農業機械大展示会	東浦、西村、福西	長浜ドーム
11 / 19	イチジク先進地視察研修	山田亨、林勝、林一	豊田市高村圃場
11 / 30	ブルーベリー部会研修会	東浦、山田亨	マキノピックランド
12 / 13	農政連盟水口支部	東浦	会議
12 / 18	イチジク栽培技術研修会	東浦	J A

# 貸借対照表

農事組合法人酒人ふぁーむ

2007年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	38,433,361	【流動負債】	10,831,904
現金・預金	7,721,429	短期借入金	3,000,000
売掛金	11,309,974	未払金	7,759,704
農産物	101,360	未払法人税等	72,200
棚卸品	607,625	【固定負債】	69,308,113
未収金	10,615,601	長期借入金	65,203,165
立替金	266,442	農用地利用集積準備金	4,104,948
仮払金	7,810,930		
【固定資産】	64,364,406	負債の部合計	80,140,017
【有形固定資産】	64,133,336		
建築物	43,743,295	資本の部	
構築物	1,753,502	【資本金】	4,480,000
機械装置	15,338,540	出資金	4,480,000
農機具	30,884,005	【利益剰余金】	18,177,750
車両運搬具	330,000	利益準備金	4,480,000
工具器具備品	672,000	当期末処分剰余金	13,697,750
減価償却累計額	28,588,006	(うち当期剰余金)	13,697,750
【投資その他の資産】	231,070		
外部出資金	50,000		
保険積立金	181,070		
		資本の部合計	22,657,750
資産の部合計	102,797,767	負債・資本合計	102,797,767

# 損益計算書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2007年 1月 1日 至 2007年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
【事業損益の部】		
【事業収益】		
【販売高】		
販    売    高	39,509,280	
奨    励    助    成    金	18,632,378	
販    売    高    合    計		58,141,658
【事業費用】		
【生産原価】		
期首農産物棚卸高	25,512	
当期農産物原価	41,385,012	
合                  計	41,410,524	
期末農産物棚卸高	101,360	
事    業    原    価		41,309,164
事    業    総    利    益		16,832,494
【事業管理費】		
事業管理費合計		6,187,868
事    業    利    益		10,644,626
【事業外損益の部】		
【事業外収益】		
受    取    利    息	7,491	
受    取    配    当    金	500	
雑          収          入	4,640,262	
事    業    外    収    益    合    計		4,648,253
【事業外費用】		
支    払    利    息	845,553	
雑          損          失	527,476	
事    業    外    費    用    合    計		1,373,029
経    常    利    益		13,919,850
税引前当期純利益金額		13,919,850
法    人    税    等		222,100
当    期    純    利    益    金    額		13,697,750

# 事業管理費内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2007年 1月 1日 至 2007年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額
福 利 厚 生 費	123,587
教 育 ・ 研 修 費	310,900
旅 費 交 通 費	60,671
通 信 費	136,533
交 際 費	191,785
諸 会 費	389,500
水 道 光 熱 費	34,839
事 務 用 消 耗 品 費	451,705
租 税 公 課	1,200,495
雑 費	79,020
税 務 顧 問 料	367,500
集 積 準 備 金 繰 入	2,841,333
事 業 管 理 費 合 計	6,187,868

# 事業原価内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2007年 1月 1日 至 2007年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
【総事業費用】		
【資材費】		
種 苗 費	3,623,351	
肥 料 費	3,959,814	
農 薬 費	1,018,528	
諸 材 料 費	611,217	
合 計	9,212,910	
資 材 費 合 計		9,212,910
【労務費】		
農 業 労 災 費	183,847	
労 務 費 合 計		183,847
【その他生産費】		
農 具 費	243,055	
作 業 委 託 料	2,813,453	
土 地 改 良 水 利 費	2,843,220	
動 力 光 熱 費	1,725,777	
修 繕 費	6,795,395	
荷 造 運 賃 送 費	703,733	
租 税 公 課	8,000	
機 械 賃 借 料	70,000	
機 械 リ ー 入 料	1,904,476	
年 貢 料 ( 借 地 料 )	6,001,879	
生 産 調 整 拠 出 金	1,333,057	
農 業 共 済 費	851,271	
雑 費	433,983	
減 価 償 却 費	6,260,956	
そ の 他 生 産 費 合 計		31,988,255
当 期 事 業 原 価		41,385,012
合 計		41,385,012
当 期 農 産 物 原 価		41,385,012

# 剰余金処分案

(単位:円)

当期末処分剰余金の処分

項 目	金 額
当期末処分剰余金の処分	13,697,750
合 計	13,697,750
これを次のとおり処分する	
従事分量配当金	13,697,750
次期繰越剰余金	0

以上のとおり報告します。

2008年 2月24日

農事組合法人酒人ふぁーむ

代 表 理 事	東 浦 常 夫
理 事	小 林 伊 佐 治
理 事	林 信 博
理 事	福 西 義 幸
理 事	坂 田 精 平
理 事	伴 慎 也
理 事	西 村 清 秋



附属明細書

平成19年度予算実績対比表

自2007年1月1日～至2007年12月31日

(単位千円)

勘定科目	平成19年度予算額		実績額		差異金額	
	金額	金額/反	金額	金額/反	金額	金額/反
[耕作面積]	換算367.4反		換算389.1反			
[事業収益]						
[販売高]						
販売高	51,379	133	39,509	103	-11,870	-31
奨励・助成金	14,621	38	18,632	48	4,011	10
販売高合計	66,000	171	58,141	151	-7,859	-20
[事業費用]						
[期首農産物棚卸]	25		25		0	
[期末農産物棚卸]	25		101		76	
[資材費]						
[生]種苗費	5,400	14	3,623	9	-1,777	-5
[生]肥料費	6,300	16	3,958	10	-2,342	-6
[生]農薬費	2,050	5	1,019	3	-1,031	-3
[生]諸材料費	530	1	612	2	82	0
生産資材費合計	14,280	37	9,212	24	-5,068	-13
[労務費]						
[生]農業労災費	400	1	183	0	-217	-1
労務費合計	400	1	183	0	-217	-1
[その他生産費]						
[生]動力光熱費	1,000	3	1,726	4	726	2
[生]修繕費	4,500	12	7,039	18	2,539	7
[生]機械賃借料	200	1	70	0	-130	0
[生]年貢料(借地料)	5,640	15	6,002	16	362	1
[生]作業委託料	3,880	10	2,813	7	-1,067	-3
[生]土地改良水利費	2,810	7	2,843	7	33	0
[生]農業共済費	960	2	851	2	-109	0
[生]生調拠出金	1,640	4	1,333	3	-307	-1
[生]機械リース料	1,950	5	1,905	5	-45	0
[生]荷造運賃送料	2,500	6	704	2	-1,796	-5
[生]雑費	240	1	442	1	202	1
[生]減価償却費	6,200	16	6,260	16	60	0
その他生産費合計	31,520	82	31,988	83	468	1
事業費用合計	46,200	120	41,307	107	-4,893	-13
[事業総利益]	19,800	51	16,834	44	-2,966	-8
[生]労務費(従事分量配当)	15,000	39	13,698	36	-1,302	-3
[改め事業総利益]	4,800	12	3,136	8	-1,664	-4
[事業管理費]						
[管]福利厚生費	100		124		24	
[管]旅費交通費	100		61		-39	
[管]通信費	150		137		-13	
[管]交際費	200		192		-8	
[管]支払手数料	50		0		-50	
[管]諸会費	300		305		5	
[管]水道光熱費	50		35		-15	
[管]賃借料	100		85		-15	
[管]教育・研修費	380		311		-69	
[管]事務用消耗品費	500		452		-48	
[管]修繕費	100		0		-100	
[管]租税公課	1,200		1,200		0	
[管]雑費	200		79		-121	
[管]税務顧問料	370		367		-3	
[管]農用地利用集積準備金	1,200		2,841		1,641	
事業管理費合計	5,000	13	6,189	16	1,189	3
[事業利益]	-200	-1	-3,053	-8	-2,853	-7
[事業外損益]	400		3,275	9	2,875	9
[経常利益]	200	1	222	1	22	0

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

# 平成19年度事業実績明細表

自 2007/1/1 ~ 至 2007/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	その他	共通	合計
[耕作面積]	223.8反		137.0反		147.3反		25.3反		3.0反					
[事業収益]														
農産物売上高	26,036	116	1,134	8	5,910	40	3,187	126	2,019	673			0	38,286
その他売上高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,385	1,097	-3,259	1,223
奨励助成金	2,640	12	7,751	57	6,106	41	2,073	82	62	21	0	0		18,632
売上高合計	28,676	128	8,885	65	12,016	82	5,260	208	2,081	694	3,385	1,097	-3,259	58,141
事業原価														
期首棚卸	25				0									25
[資材費]														
[生]種苗費	3,259	15	405	3	134	1	1,029	41	111	37	1,944		-3,259	3,623
[生]肥料費	2,130	10	1,288	9	82	1	441	17	17	6				3,958
[生]農薬費	628	3	104	1	221	2	42	2	24	8				1,019
[生]諸材料費	234	1	0	0	25	0	154	6	199	66	0	0		612
資材費合計	6,251	28	1,797	13	462	3	1,666	66	351	117	1,944	0	-3,259	9,212
[労務費]														
[生]労災保険費	75	0	49	0	46	0	11	0	2	1	0	0	0	183
労務費合計	75	0	49	0	46	0	11	0	2	1	0	0	0	183
[経費]														
[生]動力光熱費	708	3	449	3	466	3	86	3	17	6				1,726
[生]農具修繕費	2,875	13	1,823	13	1,893	13	350	14	70	23		28		7,039
[生]機械賃借料	0	0	0	0	60	0	10	0	0	0				70
[生]年貢料(借地料)	3,426	15	1,071	8	1,150	8	308	15	47	16				6,002
[生]作業委託料	376	2	1,080	8	706	5		0	0	0		651		2,813
[生]農業水利費	1,475	7	565	4	588	4	180	7	35	12				2,843
[生]農業共済費	249	1	455	3	97	1	18	1	4	1	28	0		851
[生]生調拠出金	1,109	5	0	0	224	2	0	0	0	0				1,333
[生]リース料	817	4		0		0		0	544	181	544	0		1,905
[生]荷造発送費	5	0	0	0	0	0	400	16	299	100				704
[生]減価償却費	2,566	11	1,628	12	1,690	11	313	12	63	21				6,260
[生]雑費	186	1	113	1	117	1	22	1	4	1				442
経費合計	13,792	62	7,184	52	6,991	47	1,687	67	1,083	361	572	679	0	31,988
期末棚卸	28				73									101
事業原価合計	20,115	90	9,030	66	7,426	51	3,364	133	1,436	479	2,516	679	-3,259	41,307
事業総利益	8,561	38	-145	-1	4,590	31	1,896	75	645	215	869	418	0	16,834
[生]労務費	4,714	21	1,431	10	3,741	25	2,094	83	1,718	573			0	13,698
改め事業総利益	3,847	17	-1,576	-12	849	6	-198	-8	-1,073	-358	869	418	0	3,136
[事業管理費]	2,537	11	1,609	12	1,671	11	309	12	62	21			0	6,188
事業利益	1,310	6	-3,185	-23	-822	-6	-507	-20	-1,135	-378	869	418	0	-3,052
[事業外損益]	1,341	6	852	6	884	6	164	6	33	11	0	0	0	3,275
経常損益	2,651	12	-2,333	-17	62	0	-343	-14	-1,102	-367	869	418	0	222

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

# 監 査 報 告 書

平成 20 年 2 月 16 日

農事組合法人酒人ふぁ～む  
代表理事 東浦 常夫 様

監 事 谷口 榮治

監 事 奥村 信行

私たち監事は、平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 12 月 31 日までの第 6 期事業年度の理事の職務の遂行、事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案並びに附属明細書について監査しました。その結果につき以下のとおり報告いたします。

- (1) 貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、組合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しており、組合財産の状況及びその他の事情に照らし、指摘すべき事項は認められません。
- (4) 附属明細書については、特に指摘すべき事項は認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

## 第四次 3 カ年事業計画書

平成 20 年度～平成 22 年度

### 〔基本テーマ〕

第一次 3 カ年（11 年～13 年）

「夢・創意・挑戦」 時代にマッチした農業経営

第二次 3 カ年（14 年～16 年）

「決断」と「実行」 「づくり」の時期

第三次 3 カ年（17 年～19 年）

「自立」と「自律」 夢（ビジョン）の具現化

第四次 3 カ年（20 年～22 年）

「農業」と「環境」 「生きていく」新たな挑戦

### 〔理念〕

1. 人づくり
2. 組織づくり
3. 産地づくり
4. 地域づくり

### 〔基本方針〕

1. 「儲かる」から「儲ける」へ
2. 「売れる」から「売る」へ
3. 「できる」から「作る」へ
4. 「参加」から「参画」へ
5. 「集落」から「地域」へ

「限界集落」とは長野大教授の大野晃氏が提唱した概念で、65 歳以上が 50% を越え共同体の維持が困難になる集落のことをいう。国勢調査によると、滋賀県でも過疎化・高齢化で 2000 年では 21 カ所が 2005 年には 32 カ所に増え、高齢者比率（65 歳以上）の平均も 60.5% と 2.9 ポイント拡大している。

わが集落酒人も例外ではない。昨年から取り組んできた「農地・水・環境保全向上対策」も、農村環境の衰退を遅らせるための点滴にすぎない。補助金に頼らない次の仕組みを集落自身でつくりあげなければならない。

農村環境の源は農業そのものである。農業が農地を守り、さらには農村を守る。わが集落のビジョンは何をめざすのか。「生きている」集落なのか、「生かされている」集落なのか。将来を展望するとき、「生きている」ととどまらず、「生きていく」さらには「生き残る」強い集落であらねばならない、と考える。

発足の精神に原点回帰し、農業を担っている誇りと安全・安心な農産物の提供といった生産者としての使命感をもち新たな課題に挑戦してまいります。

## 農政改革 3 対策見直しのポイント

### 1. 水田・畑作経営所得安定対策（旧・品目横断的経営安定対策）

- ・ 知事の特認から市町村の特認へ
- ・ 認定農業者の年齢制限（一部 65 歳以下）の廃止・弾力化  
集落営農の 5 年以内の法人化要件の緩和
- ・ 先進的な小麦・テンサイ産地支援～北海道、福岡、佐賀、熊本  
基準反収が実際反収を下回り交付金減少した地域救済
- ・ 収入減少影響緩和対策の充実  
07 年産米の収入減少率 10% 超分の補填（拠出ないため 3 / 4）  
08 年産以降 10% 減収までと 20% 減収までのコース選択（要拠出）
- ・ 交付金支払いの一本化  
「固定払（緑ゲタ）」を 7～8 月に早め、麦の「成績払（黄ゲタ）」  
を J A が立て替え払いすることで概算金と交付金と一緒に入るよ  
うにする。「成績払」麦は年内中に早め、大豆は 2～3 月のまま。
- ・ 申請手続きの簡素化  
書類：20 年は半分、21 年は 1 / 3 に削減 時期：4～6 月
- ・ 用語の変更

旧用語	新用語（北海道を除く都府県）
品目横断的経営安定対策	水田経営所得安定対策
ゲタ	麦・大豆直接支払い
緑ゲタ	固定払
黄ゲタ	成績払
ナラシ	収入減少補填
経理の一元化	共同販売経理

### 2. 米政策（生産調整の強化）

- ・ 都道府県間調整の創設（国は調整役）  
生産目標数量と産地づくり交付金を県間でやり取りする仕組み。  
米作りを減らす県には 1 トン当たり 11 万円増、増やす県は同 4 万円減。
- ・ 新規需要米（飼料米、バイオ燃料原料米など）もカウントする
- ・ 「地域水田農業活性化緊急対策」～長期生産調整実施者へ一時金  
今後 5 年間、生産調整の達成を水田農業推進協議会との間で「長  
期生産調整実施契約」を締結した農業者に一時金が交付される。  
08 年産の麦、大豆、飼料作物などの作付面積（拡大分）について、  
07 年産で生産調整達成者には反 5 万円、未達成者には反 3 万円で、  
1 農業者 100 万円を上限とする。  
また、非主食用米の多収品種、直播栽培、二期作などの低コスト  
生産技術の確立試験圃場も、3 年間で反 5 万円が交付される。
- ・ 未達成者には厳しいペナルティー

### 3. 農地・水・環境保全向上対策

- ・ 申請、報告手続きと確認事務の簡素化（07 年度報告から半減）

## 部門別事業計画

### 生産部

「井戸を掘るなら水が湧くまで掘れ」とは、明治の農村指導者、石川理紀之助の言葉である。2008年1月18日総理大臣福田康夫は施政方針演説の締めくくりに、このことばを引用し、国家として国民の代表として、わが国の農業・農村に対する思いと期することを切実に述べた。いよいよ我々の出番である。農業を担っている誇りと安全・安心な食料の提供といった使命をこの第四次3ヵ年計画に込め一丸となって立ち向かう。

#### [ 栽培 ]

「水田(品目横断的)経営安定対策」を柱に「米政策改革推進対策」「農地・水・環境保全向上対策」が施行され、更には「地域水田農業活性化緊急対策」が発動されるなど、これらの政策、情勢を機敏に察知し、営業部との両輪で「売るために作る」をスローガンに安全・安心・顔の見える新鮮な食材を生産。明日の酒人を見つめ「生き残っていく」ための耕し方を考察してまいります。



#### [ 重点方針 ]

1. 品質・環境に配慮した農業  
減化学肥料・減農薬栽培技術の修得
2. 売価に見合った生産原価  
コスト意識の徹底
3. 的確な栽培管理  
増収・増益の生産工程管理
4. 新規作物・新技術の導入  
「酒人ブランド農産物」の早期実現

## [ 事業計画 ]

( 穀物・野菜生産年次計画 ) = 2 ブロックローテーション

		20 年 度			21 年 度			22 年 度		
		面積 ( a )	反収 ( 俵 )	収量 ( 俵 )	面積 ( a )	反収 ( 俵 )	収量 ( 俵 )	面積 ( a )	反収 ( 俵 )	収量 ( 俵 )
水 稲	うるち玄米	1,322	9.0	1,190	1,362	9.3	1,267	1,322	9.5	1,256
	もち玄米	596	9.0	536	596	9.0	536	596	9.0	536
	計	1,918	9.0	1,726	1,958	9.2	1,803	1,918	9.3	1,792
小 麦		1,770	4.0	708	1,730	4.2	727	1,770	4.5	797
大 豆	種 子 用	820	3.0	246	820	3.3	271	820	3.5	287
	食 糧 用	950	3.5	333	910	3.8	346	950	4.0	380
	計	1,770	3.3	579	1,730	3.6	616	1,770	3.8	667
野 菜	露 地	158	ブロッコリー・ 南瓜・いちじく		158	ブロッコリー・ 南瓜・いちじく		158	ブロッコリー・ 南瓜・いちじく	
	ハウス	30	小松菜・トマト・ サニーレタス		30	小松菜・トマト・ サニーレタス		30	小松菜・トマト・ サニーレタス	
稲 わ ら		1,200	40 梱包	4,800 梱包	1,200	45 梱包	5,400 梱包	1,200	45 梱包	5,400 梱包

### 20 年度穀類生産計画

水		栽培面積 ( a )	1 0 a 当り		生 産 量	
			収量 ( kg )	俵 ( 60 kg )	総収量 ( kg )	出荷量 ( 俵 )
稲	うるち玄米	1,322	540	9.0	71,400	1,190
	もち(羽二重)玄米	596	540	9.0	32,160	536
	合 計	1,918	540	9.0	103,560	1,726

小		栽培面積 ( a )	1 0 a 当り		生 産 量	
			収量 ( kg )	俵 ( 60 kg )	総収量 ( kg )	出荷量 ( 俵 )
麦	農林 6 1 号	1,770	240	4.0	42,600	710
	合 計	1,770	240	4.0	42,600	710

大豆		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
ふくゆたか	種子用	820	180	3.0	14,760	246
	食糧用	950	210	3.5	19,920	332
合計		1,770	196	3.26	34,680	578

## 20年度野菜栽培形態別生産計画

露地	品目	栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
地	ブロッコリー	130.0	750	(5kg) 150箱	9,750	1,950箱
	白菜	15.0	4,500	(15kg) 300箱	6,750	450箱
	キャベツ	15.0	2,500	(10kg) 250箱	3,750	375箱
	えびす南瓜	50.0	1,400	(10kg) 140箱	7,000	700箱
	いちじく	23.6	-	-		500パック

八戸	品目	栽培面積 (a)	1a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
ウ	小松菜	20.3	120	(200g) 600袋	2,400	12,000袋
	ほうれん草	1.8	150	(200g) 750袋	270	1,350袋
ス	サニーレタス	14.6	150	(250g) 600袋	2,190	8,760袋
	トマト	4.0	400	(4kg) 100箱	1,600	400箱

## 20年度耕畜連携稲わら生産計画(JA稲わら生産供給組合)

稲わら		採集面積 (a)	10a当り		生産量	
			収集量 (kg)	梱包 (10kg)	総収集量 (kg)	出荷量 (梱包)
飼料用稲わら		1,200	400	40	48,000	4,800
合計		1,200	400	40	48,000	4,800



## 労 務

「集落営農」とは、あまり手間ひまかけずに地域の集落の農地を守る方法と聞いてきました。今まさにわが集落の取り組みそのものです。しかも、全員野球です。老若男女みんなで酒人の農地を守ろうと決意したからです。

酒人田園環境愛護会と手を取り合って、私たちの住環境も守っています。現在、甲賀市では、酒人の農地の1.4倍にあたる700haの水田が耕作放棄地となっています。私たちの農地は先祖からの大切な預かりものです。その大切な資産の価値を下げることなく後世につないでいくには耕し続けることです。

耕すためには労力が必要です。母体となる酒人ふぁ～むの経営自体が健全であることは申すまでもなく、そのためのコスト意識が不可欠なのです。企業的労務管理を行います。共に喜ぶための手段とご理解いただき、一層のご協力をお願いして決意とします。

### [ 重点方針 ]

1. 生産労務コストの低減～段取り八分で効率作業の徹底
2. 作業環境の向上～快適環境で楽しく地域保全
3. ユニホーム着用するだけでプロに変身～未然に防ごう労働災害

### [ 事業計画 ]

作物別労働時間計画

(単位:時間)

	水 稻		小麦	大豆	露地野菜	ハウス野菜	共通作業	合 計
	栽培・収穫	稲わら収集	栽培・収穫	栽培・選別	栽培・収穫	栽培・収穫	営業・事務・施設	
配分率	21%	3%	5%	21%	21%	17%	12%	100%
1月	75		40	1,200	200	130	200	1,845
2月	85		10	1,280	100	130	300	1,905
3月	125		20		140	270	100	655
4月	255		50		210	170	100	785
5月	600		100		210	270	150	1,330
6月	170		250	50	350	300	100	1,220
上期	1,310		470	2,530	1,210	1,270	950	7,740
7月	465			210	450	220	150	1,495
8月	100			150	350	220	100	920
9月	465			100	420	240	150	1,375
10月	550	300		20	250	250	200	1,570
11月	125	200	200	20	280	210	100	1,135
12月	85		40	150	190	150	150	765
下期	1,790	500	240	650	1,940	1,290	850	7,260
合計	3,100	500	710	3,180	3,150	2,560	1,800	15,000

## 営 業 部

日本の食糧自給率は39%まで落ち込み、また、食の安全・安心が強く求められている昨今、当地（酒人）で生産した農産物の安全性を自信を持って強くアピール。消費者への知名度アップを図る営業活動を進めて行く考えであります。酒人ふぁ～むの営業力は、組合員の力の総和で協力宜しくお願い致します。

### [ 重点方針 ]

生産部と連携した良品の安定供給

酒人ふぁ～む農産物の知名度アップ

### [ 事業計画 ]

1. 販売体制づくり  
他部門との連携を密にして、知恵を出し合い販売体制・方法の確立
2. 販売網の確立  
色々な媒体を使って、知名度をアップするとともに、販売地域を徐々に拡大していく
3. アンテナショップの設立の検討・準備  
自らが作ったものを自らで売る直売所を開設するための検討・準備に入る。
4. 加工部門の検討・設立  
生産物の付加価値を上げるため加工部門の検討
5. 売するための生産指導を強化  
作って良し、売って良し、食して良し

### ( 年次計画 )

20 年 度	21 年 度	22 年 度
縁故米の拡大方策検討 販路調査、市場調査 企画部と連携 PR看板の設置 近隣消費者へのアピール 野菜の集落内販売開始 生産部と連携 ネット販売強化 企画部と連携	加工部門の設置（試販） 施設部と連携 野菜販売のエキスパート育成 アンテナショップ開設 施設部と連携 パン工房検討（試販） 企画・施設部と連携	産直法人 (有)旬の里開業 特産品の開発 生産部と連携

3ヶ年計画

		20年度			21年度			22年度		
		出荷量 (俵)	単価 (円)	販売高 (千円)	出荷量 (俵)	単価 (円)	販売高 (千円)	出荷量 (俵)	単価 (円)	販売高 (千円)
水稲	うるち玄米	1,190	14,500	17,275	1,267	14,500	18,371	1,256	15,000	18,840
	もち玄米	536	15,200	8,140	536	16,000	8,576	536	16,000	8,576
	計	1,726	-	25,415	1,803	-	26,947	1,792	-	27,416
小麦		708	2,300	1,628	727	2,500	1,818	797	2,500	1,993
大豆	種子用	246	27,000	6,642	271	27,000	7,317	287	27,000	7,749
	食糧用	333	5,900	1,965	346	5,900	2,041	380	5,900	2,242
	計	579	-	8,607	616	-	9,358	667	-	9,991
野菜	露地	-	-	3,975	-	-	4,000	-	-	5,000
	ハウス	-	-	2,008	-	-	2,000	-	-	2,000
	計	-	-	5,983	-	-	6,000	-	-	7,000
稲わら		4,800	420	2,016	5,400	420	2,268	5,400	420	2,268
合計		-	-	43,649	-	-	46,391	-	-	48,668

20年度穀類市場 (マーケット) 別販売計画

水	業 販		出荷量(俵)	出荷単価(円/俵)	販売高(千円)
		うるち玄米		590	12,500
	もち(羽二重)玄米		516	15,000	7,740
	小 計		1,106	-	15,115
稲	直 販		販売量(俵)	販売単価(円/俵)	販売高(千円)
		うるち玄米	600	16,500	9,900
		もち(羽二重)玄米	20	20,000	400
		小 計	620	-	10,300
合 計			1,726	-	25,415

小麦	業 販		出荷量(俵)	出荷単価(円/俵)	販売高(千円)
		農林61号		708	2,300
合 計			708	2,300	1,628

大	業 販		出荷量(俵)	出荷単価(円/俵)	販売高(千円)	
	ふくゆたか	種子用		246	27,000	6,642
		食糧用		333	5,900	1,965
小 計			579	-	8,607	
豆	直 販		販売量(俵)	販売単価(円/俵)	販売高(千円)	
	ふくゆたか	種子用				
		食糧用				
		小 計				
合 計			579	-	8,607	

20年度野菜栽培形態別販売計画

露地	品 目	出 荷 量	売価単価（円）	販売高（千円）
	ブロッコリー	1,950 箱	1,350	2,632
白 菜	450 箱	650	293	
キャベツ	375 箱	400	150	
えびす南瓜	700 箱	1,000	700	
いちじく	500 箱	400	200	
小 計				3,975
ハウス	品 目	出 荷 量	売価単価（円）	販売高（千円）
	小 松 菜	12,000 袋	70	840
	ほうれんそう	1,350 袋	100	135
	サニーレタス	8,760 袋	70	613
	ト マ ト	400 箱	1,050	420
小 計				2,008
合 計				5,983

野菜市場（マーケット）別販売計画

品 目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		中食・外食・食材企業		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 （ - ）	販売高 （千円）
	数量 （束、箱）	販売高 （千円）	数量 （束、箱）	販売高 （千円）	数量 （袋、束、個）	販売高 （千円）	数量 （束、個、箱）	販売高 （千円）		
ブロッコリー	1,850	2,500			90	120	10	12	1,950	2,632
白 菜	385	250					65	43	450	293
キャベツ	300	120			75	30			375	150
えびす南瓜	650	650			40	40	10	10	700	700
いちじく	250	100			250	100			500	200
小松菜	9,150	640			1,400	100	1,450	100	12,000	840
ほうれん草	1,350	135							1,350	135
サニーレタス	8,570	600			190	13			8,760	613
トマト	190	200			210	220			400	420
合 計	-	4,995			-	623	-	165	-	5,983

業販=JA・市場等への業者を通じた販売、直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

耕畜連携稲わら販売計画（JA甲賀郡稲わら生産供給組合）

稲 わ ら	業 販		出荷量（梱包）	出荷単価（円/梱包）	販売高（千円）
	飼料用稲わら	配 達	4,800	420	2,016
		引 取			
合 計		4,800	420	2,016	

## 機械施設部

### [ 重点方針 ]

「危機こそが新たな工夫を生む」

生産部と連携してオペレーターの出役体制を見直し、「みんなで酒人ふぁ～むを成長させていこう」という意識を持とう！

### [ 事業計画 ]

1. 全員参加で農機操作、農作業の技術を習得。  
～不得意な人、苦手な人でもプロに変身できます～
2. 機械および施設の整備・管理技術の習得。  
「A農機課に頼るのでなく、自らも保守管理できる技術を身に付ける。」
3. ハイクリ仕様の乗用管理機、ロータリーカルチ(2連)をリースにて導入。  
～露地野菜の栽培に威力を発揮するものと期待～



4. 「アンテナショップ」設置具体策を作成。  
～自らが作り、自らが売るためには加工直売所、アンテナショップが必要です。営業部と連携をとり検討を重ね、ショップ開設をめざす～

### [ 投資計画 ]

(単位：千円)

年度	投資予定資産	取得費	予定補助金	負担金
20	クボタ乗用管理機 GR16-60 中古機(45H 使用)	1,450		6年リース による分割 満了後は残 価買取か再 リース予定
	ニプロロータリーカルチ RM213HKA 2連	380		
	小 計	1,830	0	
21	野菜加工・パン工房機器	10,000	5,000	5,000
22	直売所「旬の里」	20,000	10,000	10,000

## 企画管理部

### [ 重点方針 ]

- 1 . 財務の健全化と原価意識の徹底
- 2 . 販売力の強化で自立した組織を目指す
- 3 . 農村集落づくりと広域営農システムの検討開始

### [ 事業計画 ]

- 1 . 「地域水田農業活性化緊急対策」を取り込み活用する  
昨年未、米政策関連予算が閣議決定され、生産調整実施者にとってメリットが拡充されました。今年度産から5年間、地域水田農業推進協議会と長期契約を結ぶことで、拡大面積に応じて助成(反当り5万円)されます。米の販路拡大が進まない当組合にとっては消極策ではありますが、国策に協力しつつ、反面これまで以上に麦・大豆(特に種子大豆)・野菜の栽培に傾注できるチャンスととらえます。
- 2 . 販売体制づくりの正念場  
営業部を新設してから2年、売ることの自立が今だ果たせていません。理事会を含め対策会議の開催回数は年々増加しているものの、当面の経営課題に追われ次のステップへの議論が不足していました。今期は自分事としてとらまえ、小さな成果を積み重ねていきます。
- 3 . 資金繰りの安定化と経費削減  
品目横断的経営安定対策の見直しによる交付金支払いの一体化で、少し資金繰りは改善されることが予想されますが、借入依存体質が脱却できていない当組合の喫緊かつ最大の課題です。  
経理部門の指導力を強化するとともに、各部の連携を密にし、資金回収期間の短縮と分散化をはかり、資金繰りを安定化させます。併せて、賃金体系を見直し、人件費・物件費とも経費削減に取り組みます。  
また、コストをかけない精米事業(年間収入17万円)や圃場貸与事業など収益機会を模索していきます。
- 4 . 法人による拠点施設用地の取得  
換地完了に伴う事務所・格納庫・乾燥調整棟の底地(圃場 30-1)取得  
取得費 1.765 反 × 1,200 千円 + 工事協力金 350 千円 = 2,468 千円(概算)
- 5 . 組織づくりと集落づくり  
組織に対する評価は高く視察は今も続いています。役員は義務感に頼っているのが現状です。その役員も高齢化が進んでいます。役員に頼らない再生産可能な組織をつくり、集落の核となる「元気印」を目指します。
- 6 . 集落営農から地域営農へ(別紙参照)  
3ヵ年で柏木地域営農組織「アグリネットワーク」の検討を開始します。

## 地域営農システム

**“ 共益が私益を生み、公益につながる ”**

<b>共益</b>	～ 集落の利益	
<b>私益</b>	～ 集落民の利益	
<b>公益</b>	～ 地域の利益	

ライスショック、自給率低下、食品偽装、毒入り餃子など募るばかりの「食の不安」、一方で鳴子の米プロジェクト、食の文化祭、子供がつくる弁当の日、味噌汁の日など国内でも「地元」に根ざした食の活動はますます元気。

地元とは、食のつくり手、食べ手が「生産者」「消費者」ではなく、「家族」「住民」として自己決定する範囲。

足元の「食の自治」から「生産の自治」まで「地域機能」を生かした地域営農づくりへスタートダッシュ！！

平成20年度	平成21年度	平成22年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域営農検討開始 〔3集落営農組織横の連携検討〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品目別JV経営開始 (2集落営農法人化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 瑞穂アグリグループ結成 〔限りなき生産コスト低減策〕</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「米」脱却経営検討開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米に依存しない経営策実践 〔麦・大豆・野菜で安定経営〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適地適作 〔甲賀の生産調整担ってみようか！〕</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共同アンテナショップ検討開始 (集落ごとの品揃え)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共同アンテナショップ開設 (農産物直売加工食品試作販売(漬物、味噌など))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産直法人(有)旬の里開業 (地産地消と旬採旬消)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネット販売強化 (機器更新)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パン工房具体策検討 (小麦にかわる米粉)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農機リース法人検討開始 (作業受託含む)</li> </ul>

## 財務計画・損益計画(平成20年～平成22年)

(単位:千円)

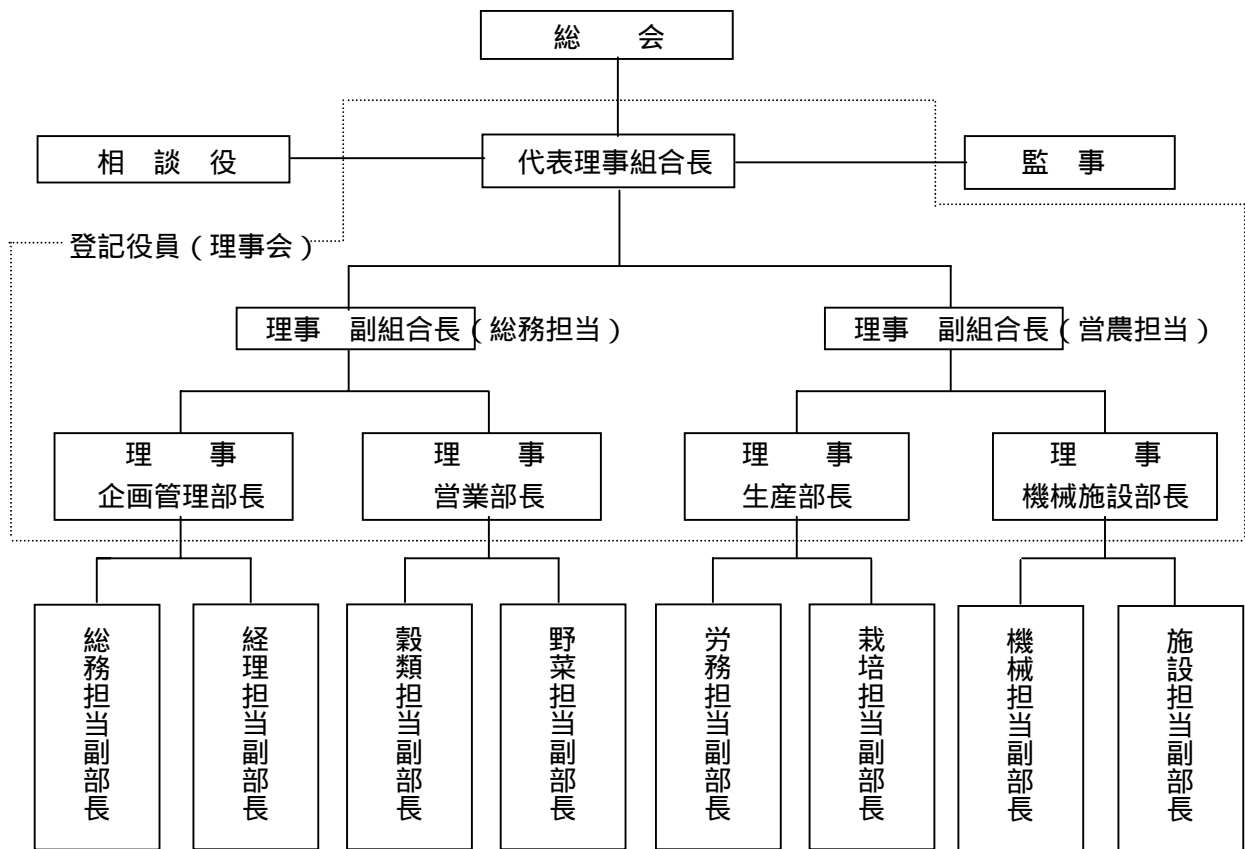
科 目	前期繰越高	平成20年残高	平成21年残高	平成22年残高	
貸 借 対 照 表	流動資産	38,433	37,636	36,436	37,536
	現金預金	7,721	7,101	6,078	7,355
	その他	30,712	30,535	30,358	30,181
	固定資産	64,364	58,064	51,764	45,464
	外部出資他	231	231	231	231
	資産の部計	102,798	95,700	88,200	83,000
	流動負債	10,832	11,832	10,832	11,832
	固定負債	69,308	59,908	53,408	47,208
	経営基盤強化準備金	4,105	4,405	7,605	11,105
	長期借入金	65,203	55,503	45,803	36,103
	資本の部	22,658	23,960	23,960	23,960
	出資金	4,480	4,480	4,480	4,480
利益剰余金	18,178	19,480	19,480	19,480	
利益準備金	4,480	4,480	4,480	4,480	
当期剰余金	13,698	15,000	15,000	15,000	
前期繰越剰余金	0				
負債・資本計	102,798	95,700	88,200	83,000	

科 目	平成20年度		平成21年度		平成22年度		
	387.6反	@/反	387.6反	@/反	387.6反	@/反	
損 益 計 算 書	事業収益						
	販売高	63,000	163	65,700	170	68,000	175
	総事業費用						
	生産資材費	12,500	32	13,500	35	14,500	37
	労務費	400	1	400	1	400	1
	その他生産費	28,800	74	29,800	77	30,800	79
	(減価償却費)	6,300	16	6,300	16	6,300	16
	事業費用合計	41,700	108	43,700	113	45,700	118
	< 事業総利益 >	21,300	55	22,000	57	22,300	58
	事業管理費						
	共通管理費	6,220	16	6,720	17	7,020	18
	(農業経営基盤準備金繰入)	2,800	7	3,200	8	3,500	9
< 事業利益 >	15,080	39	15,280	39	15,280	39	
事業外損益	150		50		50		
営業外収益	1,000		800		800		
営業外費用	850		850		850		
< 経常利益 >	15,230	39	15,230	39	15,230	39	
法人税等	230	1	230	1	230	1	
< 当期剰余金 >	15,000	39	15,000	39	15,000	39	
(従事分量配当)	15,000	39	15,000	39	15,000	39	



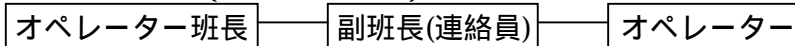
# 農事組合法人酒人ふぁ～む組織図

平成 20 年 2 月 24 日現在



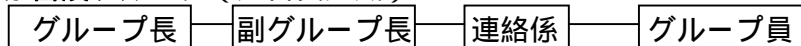
## 酒人ふぁ～む協力組織

### オペレーターグループ (ふぁ～む直轄)



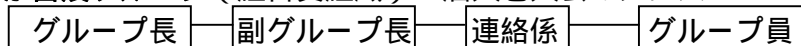
酒人区内に居住し、集落営農の趣旨に賛同し、オペレーターとして出役が可能で営農意欲のある 20 歳以上 55 歳以下の男子 (登録制)

### なごやか営農グループ (組合員組織)



酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業) に出役頂ける 56 歳以上 65 歳未満の男子及び 20 歳以上 65 歳未満の女子

### すこやか営農グループ (組合員組織) ~ 酒人老人会のメンバー



シルバー世代の酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業) の一部を担当頂くグループ

### やすらぎ営農グループ (ボランティア) ~ 酒人敬老会の大関・横綱グループ

囲炉裏端会議のメンバーで、雑草取りの名人

# 農事組合法人酒人ふぁ～む組合員名簿

平成20年2月24日現在

	垣戸	コード	組合員名		垣戸	コード	組合員名
1	上 (10)	101		31	中 (5)	401	
2		102		32		402	
3		103		33		404	
4		104		34		408	
5		105		35		409	
6		106		36	寺 (6)	501	
7		107		37		502	
8		108		38		503	
9		109		39		505	
10		110		40		506	
11	201		41	507			
12	清水 (8)	202		42	椎名 (9)	601	
13		203		43		603	
14		204		44		604	
15		205		45		605	
16		207		46		607	
17		208		47		608	
18		209		48		610	
19		301		49		612	
20	302		50	613			
21	奥出 (12)	304		51	北出 (4)	701	
22		305		52		702	
23		306		53		703	
24		308		54		706	
25		309		55	八 (2)	805	
26		311		56		809	
27		313					
28		314					
29		315					
30		316					



農事組合法人 酒人ふぁ～む

2008/02/24